

A I 時代の新ネット検索術

1. キーワード検索 ➡ 対話型検索 (チャットGPT等)

- ・キーワード検索の問題点
- ・チャットGPTの利点・欠点

2. Google Bardの登場

- ・チャットGPTと対決

3. マイクロソフトの検索「Bingチャット」登場

- ・マイクロソフトの本気度

4. チャットGPTの上手な使い方

1. キーワード検索から対話型検索

●対話型の生成AIは「検索」と「相談」ができる

キーワード検索

検索結果

- 企画書作成術
- アイデア発想法
- イベント企画例
- マーケティング
- ウェビナー
- イベント会場

一つひとつ確認



対話型検索

- 仕事のアイデア出しを手伝って
どのような仕事ですか
- イベントの企画です
企画案をいくつか提供します

相談しながら情報収集



図1 これまでのキーワード検索は、検索結果から情報を自分で確認しなくてはいけなかったが、対話型の生成AIは会話しながら「相談」する感覚で情報収集できる

◆キーワード検索

- キーワードで検索すると
 - 該当するであろうホームページが数件～十数件のリストが表示されるが、どれを開くか迷う。
 - 適当に開くと、内容が簡単すぎたり、やたらと詳しいものなど。
 - 中にはやたらと、広告が一杯表示され邪魔をする。
 - そこで別のサイトを開くが、物足りない。そして次のサイトへ……

◆対話型検索(チャットGPT)

調べたい内容(思い)を入力すると、直ぐに回答が記述される。

満足できなければ、追加で聞き直すと、それなりの回答が記述される。

これを繰り返すことで、よく分る。

回答方法を指定すれば、それに沿った形の回答もしてくれる。

ただ、時々間違った答えがでます。

2. Google Berdの登場

- Googleからも、チャット型の生成AIが登場し、5月から日本語にも対応しています。
- そこでどちらが良いのか日経新聞が、2つの生成AIを対戦させ記事にしました。
- 対戦テーマは次の5つ

要約

キャッチコピー

市場調査

メール代筆

プログラミング

結果		
	ChatGPT	Bard
対戦テーマ		
要約	勝ち	負け
キャッチコピー	引き分け	
市場調査	引き分け	
メール代筆	負け	勝ち
プログラミング	勝ち	負け

総評
2勝1敗2分けでChatGPTが勝利
ChatGPTの説明は長くなりがちな印象
Bardの回答は短めでシンプル
指示文の工夫や追加で対話することで回答は変わりそう
いずれも工夫して使えば「伴走役」として仕事の効率化や創造力拡張に役立ちそう

この情報と記事は大石さんからの提供です

3. マイクロソフトの検索に Bingチャット登場

- マイクロソフトはオープンAIが立ち上がる時（2015年）から参画していましたが、2019年には10億ドルの出資をしています。
 - 検索「**Bing**」にチャットGPTを連携
 - Windows11にAIによる機能を追加（6月）
 - 「ウインドウズ・コパイロット」として対話機能を付ける

チャットGPT 検索

【ニューヨーク共同】米マ
グ」の機能を連携させたと
発表した。チャットGPTは
2021年9月までの情報を
基にしていたが、最新の検索
結果を回答に反映できるよう
になる。

チャットGPTの有料会員
向けに提供を開始した。無料
会員にも近く広げる予定だ。
MSが開発者会議で発表し
た。同時に、パソコンなどの
基本ソフト(OS)「ウィン
ドウス11」にAIによる支援
機能を6月に追加することも
発表した。



iPhoneに表示された
チャットGPTアプリのア
イコン(APII共同)

機能連携

MSはチャットGPTを開発した米新興企業オープンAIとの連携強化でGoogleに對抗する。Googleは対話型AI「Bard（バード）」の利用地域を世界に拡大したほか検索にもAIを導入する方針を表明しており、MS陣営との競争が激化している。MSはオープンAIに投資しており、ビングにもオープンAIの技術を基盤とした対話機能を設けている。MSのナデラ最高経営責任者（CEO）は「チャットG

マイクロソフト

回答に最新情報反映

P.Tとビングの連携のためにオープンAIと計画していることの始まりに過ぎない」と述べ、協業をさらに進める考えを示した。

ウィンドウズ11の支援機能の名称は「ウィンドウズ・コパイロット」で、画面の右側に対話機能が付くようになる。ソフトの操作を指示したり、文書ファイルの要約を作成したりできる。

MSはビングにインターネット通販や旅行サイトなどと連携できる機能を持たせたと発表した。ビングとの対話から簡単に食材を注文したり、旅行の予約を取ったりできるようになる。

Google対マイクロソフトの構図



Google

Google Bard



マイクロソフト

- ・Bing チャット(チャットGPTと連携)
- ・Windows11にも近くAIによる支援機能を追加(コパイロット)



出資



オープンAI



連携

チャットGPT
チャットGPTプラス

チャットGPTでの検索結果

チャットAIの比較を「チャットGPTに聞いてみました」

HA

#チャットGPT、Google Bert、Bing AIチャットについて表にする

#記載事項と次の通り

開発者名、利用料金、使用しているソフト名、収納データ量、その他特徴

#本文



以下の表に、ChatGPT、Google Bert、Bing AIチャットについての情報をまとめました。



	チャットGPT	グーグルバート	Bing AIチャット
開発者名	オープンアイ	ググル	マイクロソフト
利用料金	素材があります	無料	無料
使用しているソフト名	GPT-3.5	バート	不明
収納データ量	大規模	大規模	大規模
その他特徴	自然な対話を生成	自然言語処理に特化	検索エンジンとの連携

上記の表は一般的な情報に基づいていますが、詳細な仕様や料金プランは変更される場合があります。各サービスの公式ウェブサイトを参照して最新の情報を確認することをおすすめします。

🔄 応答の再生成

Bingチャットについて解説

1/2

For X-tech Marketing

SEDesign

<https://www.sedesign.co.jp/dxinsight/bing-ai-chat>

BingのAIチャットの概要

BingのAIチャットは、Microsoft社が開発した対話型のAIチャットツールであり、2023年2月にリリースされました。ユーザーからの質問に対して、AI技術を活用してさまざまな情報を収集・抽出し、チャットで適切な回答を行うことが可能です。

そもそも**Bing**とは、Microsoft社が提供している検索エンジンであり、**BingのAIチャットはBing検索エンジンに対してAIチャット機能を実装したツール**です。「BingChat」や「BingAI」などと呼ばれていますが、公式サイトでは「新しいBing」とされています。

BingのAIチャットは現在無料で使用でき、日本語での質問や回答にも対応しています。

BingのAIチャットの仕組み

BingのAIチャットは、ChatGPTを開発したアメリカの非営利団体であるOpenAIが持つ「**GPT-4**」という技術を採用しています。Microsoft社はOpenAIに多額の出資をしており、OpenAIとパートナー関係にあるため、OpenAIが持つ技術を利用できるのです。

そもそも「GPT」とは、「Generative Pretrained Transformer」の略であり、異なる文章間の類似度や含意関係を高精度に推測できる自然言語技術処理モデルです。GPT-4は、GPTの最新バージョンであり、膨大なテキストデータだけでなく画像や動画、音楽といったさまざまな形式のデータも学習しています。

BingのAIチャットは、Bing検索とGPT-4の技術を組み合わせたツールであり、Microsoft社は組み合わせたこれらの技術を「Microsoft Prometheus（マイクロソフトプロメテウス）モデル」と称しています。

それでは、新しいBing(Bingチャット)を使ってみましょう。

- ・Edgeでインターネットに接続
- ・マイクロソフトのアカウントでログイン
- ・Bingをクリック
- ・Bingのチャットをクリック
- ・レベルを選択
- ・何でも聞いてみる

Bing チャットのトップ画面

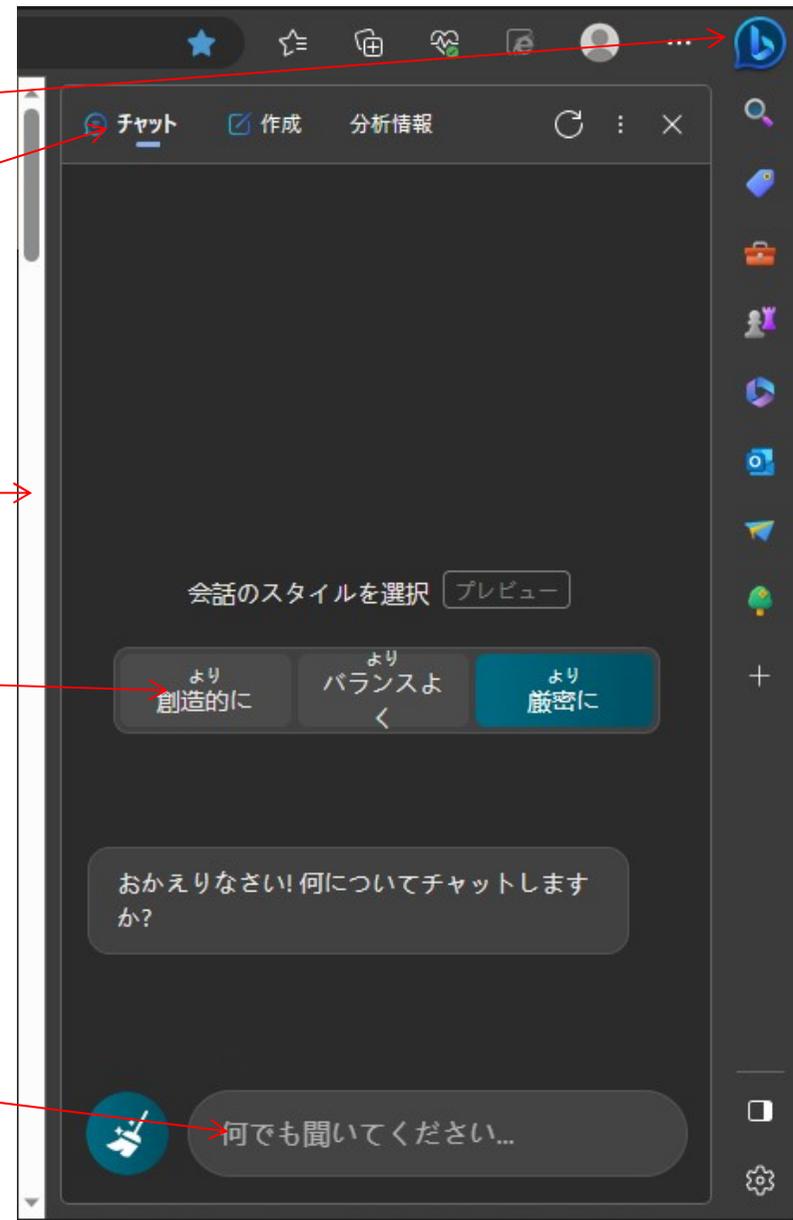
Edgeのトップ画面の右上の
bのマークをクリックした画面

チャットをクリック

ここをドラッグすると画面が横に広がります

会話のスタイルを選択

何でも 入力



4. チャットGPTの上手な使い方

① #記号を使って回答に条件をつける

本文の前に、回答の前提となる条件・制約事項などを#記号を付けて記述します。

#指示

文章の形態(箇条書き、○項目)

#制約

400文字で

#本文

②回答を追加させる

② 消去方法

個人情報が残らないように

トップ画面 の本人IDをクリック⇒設定⇒クリア